

平成 27 年第 1 回那覇港管理組合議会（2 月定例会）

平成 27 年度（2015） 施政方針

平成 27 年 2 月 10 日

那覇港管理組合

平成27年度（2015年度）施政方針

平成27年第1回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたっての施政方針について申し述べ、議員各位、県民・市民の皆様のご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

1. 運営の基本姿勢

昨年的那覇港の外貿コンテナ貨物は、速報値で輸出貨物が3.3%増加、輸入貨物が7.8%減少し、合計で約8万1千TEUでした。

定期航路では、6月に琉球海運が台湾航路を開設、8月には南西海運が高雄港への寄港を開始するなど地元船社による新たな動きも見られました。

今年は、ガントリークレーン4号機が供用を開始します。

今後、港湾施設の整備と合わせ、国内外へのポートセールスや輸出貨物増大などの取り組みを着実に実施し、港湾機能の強化を図って参ります。

クルーズ船については、昨年は過去最高の80回の寄港回数を記録しました。

また、ターミナル・ビルやアクセス道路、ボーディング・ブリッジが完成するなど、施設の面でも充実しました。

那覇港のこうした取り組みが認められ、昨年12月にはクルーズ・オブ・ザ・イヤー2014の特別賞を受賞しました。

今年は、16万トン級のクァンタム・オブ・ザ・シーズをはじめ、現時点で約100回の寄港の予約が入っております。

今後、増加するクルーズ船の需要に対応し、第2バースの整備や起点港化に向けた取り組みを進めて参ります。

一方、大規模災害への対応や一部老朽化した港湾施設の改修についても十分な対策を行い、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めて参

ります。

2. 平成27年度予算編成

平成27年度の予算編成に当たっては、ただいま申し述べました基本姿勢に基づき、また限られた財源の中で沖縄振興一括交付金を積極的に活用しつつ、重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、平成27年度予算案は、
一般会計において46億3,442万6千円
特別会計において15億1,963万3千円
の規模となっております。

(主要事業の説明)

平成27年度の主要事業について、4つの重点施策に沿って説明いたします。

1) 流通港湾としての機能強化

物流機能の高度化を図るため、総合物流センター

を整備します。また、輸出貨物増大のための社会実験を行い、貨物量の増大を図ります。

また、既存施設が効率的に運用されるよう、港湾施設の適切な管理運営に引き続き取り組んで参ります。

2) 国際観光・リゾート産業の振興

クルーズ船を誘致するため、国内外へのポートセールスを積極的に展開し、大型船や那覇港を起点とするクルーズなど船社の様々なニーズに対応して参ります。

また、関係部局と連携し、クルーズ客を受け入れるための歓迎セレモニーや各種イベント等を実施します。

泊地区においては、離島住民や観光客の快適性・利便性の向上を図るため、屋根付き歩道等を整備します。

3) 安らげる空間づくり

浦添ふ頭地区においては、景観に配慮し、かつ災害に強い港まちづくりを実現するため、臨港道路浦添線の無電柱化事業を実施します。

また、那覇港のウォーターフロント地区において、民間団体や地域と連携したイベント、ワークショップの開催により那覇港の魅力を発信して参ります。

4) 港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化

大規模な地震等が発生した際に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、臨港道路港湾2号線において液状化対策工事を進めます。

また、老朽化が進む港湾施設の安全性等を確保するとともに、予防的な保全により既存施設の延命化を図るため、港内の泊地浚渫、護岸の改修、機器・設備の更新、船客ターミナルの耐震補強等、港湾施設の計画的な維持管理に取り組んで参ります。

これらの事業を進めるため、平成27年度予算に所要額を計上しております。

以上、平成27年度那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な事業について述べて参りました。

今後とも効率的で適正な管理運営に努め、那覇港の発展のため全力を尽くす決意でございます。

議員各位並びに県民、市民の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げまして、私の施政方針といたします。